

◆司会

それでは、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

先週に引き続き、記者会見となります。本日の話題は、令和3年度9月補正予算案の概要についてであります。もう記者の皆さんには、財政局がレクを行っているかと思いますが、市民の皆さんに対しまして、9月の補正予算案、私から説明したいと思っております。今回の補正予算案の総額は、一般会計、特別会計、企業会計を合わせておよそ93億円です。このうち一般会計の77億円は平成17年、2005年の政令指定都市移行以降、最大の規模となります。最大規模の補正予算を組む理由は、もちろん新型コロナウイルス感染症対策です。“いのち”と“くらし”、ここにも掲げていますように、二つのLifeを守るという静岡市のコロナ対策に対する大きな指針に則って、喫緊の感染拡大に対応した“いのち”を守る取り組みだけではなく、その後の“くらし”を取り戻すための取り組みにもつないでいく、「市民の安全安心の確保」「地域経済の活性化」そして、「デジタル化の推進」、これを三つの柱に、およそ34億円の予算を組み、新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組んでまいります。

この感染症対策34億円の中でも、今、最も力を注ぐべきことは、一つ目の柱である市民の安全安心の確保です。安全安心を確保するため、感染拡大に対応する医療体制を支える事業と感染拡大によって厳しい状況にある事業者の皆さんを支える事業に、この34億円のおよそ70%、23億円を投入し、市民の皆さんの“いのち”を守る体制の強化に最優先で取り組んでまいります。医療体制を支えるための主な事業は、前回の会見で発表いたしました、静岡市方式である在宅ドクターサポート事業の拡充です。自宅療養者に対するケアを手厚くしたいという思いであります。重症化する恐れのある自宅療養者から、全ての自宅療養者に対象を拡大して、自宅での安全安心な療養環境を確保できるよう、体制を強化します。そのほか入院が必要となる新型コロナの陽性の患者さんの入院の医療費の助成であるとか、PCR行政検査に係る経費を増額いたします。

一方、事業者を支えるための事業としては、応援金や資金繰りの援助によって、事業者の皆さんの今の“くらし”を守ることで“いのち”も守るための予算を計上いたしました。四つの商店街からなる静岡市中央商店街連合会から、先日、要望書をいただきました。それを受け、飲食店のみならず、幅広い事業者の皆さんから、まん延防止措置や緊急事態宣言の影響により、売上が減少し、非常に苦しいという声がたくさん届いております。そこで、売上が一定割合減少した市内の中小事業者や個人事業者の皆さんに対しまして、県と連携、協調して、上限10万円の応援金を8月、9月と2回、本市独自に

支給させていただきます。そのほか同じく県と連携、協調して、金融機関から経営資金を実質無利子での借入を可能とする制度に係る経費などの増額も行っています。

事業者の皆さんへの支援としては、感染を収束させた後の次のステップとして、新型コロナウイルス感染症対策の二つ目の柱、「地域経済の活性化」の予算も手厚く計上しています。

“暮らし”を支え、今の宣言下にある状況を乗り切った後、すなわち、市民の皆さんの協力の下、感染拡大を抑えた後を見据えたスタートアップとして、静岡市を目的地とする貸し切りバスツアーへの助成や、総額 8,000 万円相当の豪華地場産品等が当たる、いわゆる消費促進キャンペーンの準備も進めております。

さらに、新型コロナウイルス感染症対策の三つ目の柱は、「デジタル化の推進」です。当初は、令和 4 年度中に予定していた市内小学校の一、二年生への学習用の情報端末の配備を前倒しして実施するための経費等を計上しました。

以上が 9 月補正における新型コロナウイルス感染症対策の主な事業であります。

一方、お手元の資料にあるとおり、感染症対策ともう一つ、その他（B）ということで掲げておる中で、「トライアルパーク蒲原」の整備に係る経費と歳入を計上したことを私からぜひ紹介したいと思います。トライアルパーク蒲原は、蒲原地区ににぎわいを生み出すために、旧県立庵原高校のグラウンドに自転車の休憩施設やコンテナハウスなどの出店や「まちは劇場」という大きな方針の中でのイベントの開催ができる広場を整備するもので、民間事業者に実験的に使い方を試してもらいながら、必要な機能や整備を検討していく新しい手法の道の駅の整備事業であります。記者の皆さんには、お手元に報道資料を配付させていただきました。この整備にあたり、旧庵原高校のグラウンドの一部の用地を地元企業からご寄付いただくとともに、整備費用の一部には静岡市外に本社を置く企業からの寄附金も活用させていただきます。この寄附金は、国がとても力を注いでくれている地方創生応援税制、いわゆる企業版ふるさと納税制度の対象となります。企業版ふるさと納税は、ご承知のとおり企業が地方創生に資する公共事業へ寄付した場合に、その金額の最大 9 割が法人関係税から控除される制度であります。今回のこのトライアルパーク蒲原が静岡市での第 1 号のケースとなります。静岡市を応援したいという企業からの寄付を今後も活用させていただき、そして、その思いに応えられるよう、トライアルパーク蒲原の整備を鋭意進めてまいります。

結びに、今回の補正予算編成の結果、令和 3 年度の予算額の累計は、一般会計が約 3,430 億円、特別会計と企業会計を合わせた総額では、約 6,701 億円となりました。私からは以上です。

◆司会

それでは、ただ今の発表につきまして、皆さまからのご質問をお受けいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、引き続き幹事社質問のほうに移りたいと思います。朝日新聞さん、よろしくお願いたします。

◆朝日新聞

幹事社の朝日新聞です。よろしくお願いいたします。新型コロナ関係で、デルタ株の影響でこれまで感染しにくいとされていた子どもたちへの感染が広がっていますが、夏休みが終わり、子ども同士の接触が増える中で、市としてどのような対策を行っていくか、教えてください。

◆市長

ご承知のとおり、残念ながら静岡市内で、2カ所の児童クラブでクラスターが発生してしまいました。子どもたちの感染予防に、より強い危機感をもって取り組んでいかなければならないと痛感しております。今回のケースでは、食事やおやつ時間に、いわゆる黙食ができていなかったこと、あるいは食後にマスクを外して会話していたということが確認されました。マスクを外して会話しないことを徹底するよう、所管である子ども未来局から、各児童クラブ宛てに通知をすでに送付しました。もとより児童クラブは、エッセンシャルワーカーをはじめとする働く保護者の皆さんのためにも、一斉に休止することなく、感染予防を徹底して運営を継続していかなければなりません。また、今回のケースも踏まえ、感染者が判明した場合の休止等の考え方を表した対応方針を早急に策定し、保護者の皆さんに示してまいりたいと思っております。

一方、市長部局である子ども未来局と教育委員会の連携ということが、子どもたちの安全安心を守るためには大事であります。教育委員会としても、学校は学習保障や成長保障の役割、またセーフティーネットとしての福祉的な役割という重要な役割を担っておりますので、学校の一斉休校は考えておりません。教育委員会では、昨日付で、学校で感染者が判明した場合の休校等の考え方を表した対応方針を各学校等を通じて保護者の皆さんにお伝えしたと報告を受けております。さらに、現在、教育委員会では、濃厚接触で出席停止となった場合や家庭の事情等により、在宅学習を選択したいという場合に、学習機会を保障できるようなオンライン授業の環境整備も進めております。今後も静岡市では、市長部局と教育委員会が局間連携しながら、一体となって子どもたちの安全安心を守っていく取り組みを進めてまいります。子どもたちにもさまざまな我慢を強いることが避けられませんので、子どもたちの心のケアにも寄り添いながら、取り組んでまいりたいと思います。以上です。

◆司会

それでは、ただ今の幹事社質問に関連したご質問があれば、お受けしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、そのほかのご質問をお受けいたします。お願いいたします。

◆朝日テレビ

朝日テレビです。コロナ関連で今、市全体の感染状況についてお伺いしたいのですけれども、浜松市とかが一時期に比べると少し下がっている中、静岡市のほうはまだ1日あたり100人前後の感染者数が出てきています。市全体の感染状況について今、市長、どのように受け止めていますか。

◆市長

日々変わっておりますので、実務的に所管の局長から補足をさせてお答えさせていただきますが、今のところまだまだ予断を許さない厳しい状況であります。デルタ株の猛威というものが首都圏から静岡市に伝わっているという局面の中で、宣言下の9月12日まで、私どもは“いのち”を守る取り組みに全力で取り組んでまいりたいと思います。数字的なことは、補足させていただきますので、少しお待ちください。

◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局長、杉山でございます。昨日までの状況でございますけれど、昨日までで、延べで4,900人を超える、5,000人近い方のこれまで感染が出ているというところでございます。また、10万人あたりの新規陽性者数も、昨日は100人を切ったところではございますけれど、決してこれで落ち着いてきたというふうな見方ではなく、まだまだ予断を許さない状況になっているのかなというふうに思っております。県内どこもまだ感染者が複数、これまで以上に出ているところの市町村がございますので、静岡市においてもこれから、まだ減るというよりも増えることを覚悟しながら対応を取っていきたいというふうに思います。

◆朝日テレビ

市長にもう一点だけお伺いします。先ほど一斉休校は考えていないというお話がありました。その前に、学校という場所の重要な役割があると挙げられましたけど、あらためて、今、この児童クラブ等でのクラスター出ている中で、そういった休校をしないという判断の理由についてお聞かせください。

◆市長

それは、先ほど申し上げたとおりになりますけれども、教育委員会と議論しました。やっぱり私たちには、一昨年以来のコロナ対策に対しての経験があります。去年は、国の強い要請で一斉休校をいたしました。それによって、感染が抑えられたという側面もあるでしょうし、また学びが遅れたという側面もありました。それを検証して、今回、我々は一斉休校はしないと、共稼ぎの皆さん、家庭の事情、いろいろあるでしょう。そういう中で、ひとつ、子どもの居場所を確保するということが大事かということで一斉休校

はしない、ただし、保護者によって、いろんな考え方があるでしょう。自分のお子さんは通学させたくないということについて、やはりそれは一人ひとりの希望といたしますか、決断ということを尊重した受け皿づくりに努めていくつもりであります。

◆朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞社です。私、こちらに参りますまで、プロ野球阪神タイガースのセットアッパーの岩崎選手が清水出身ということ存じ上げなかったのですが、先月の五輪でも金メダルに貢献したみたいですけど、市として何か顕彰等はお考えになっていないでしょうか。

◆市長

これは、県と連携しながらということで、観光交流文化局が議論、検討しております。ただ、今のところ団体スポーツだということもあるものですから、一人岩崎選手だけを持ち上げた形で顕彰するということは、まだ議論の途中であります。今日は、観光交流文化局はいらっしゃってないかな。スポーツ交流課が所管になりますので、その辺りのところをぜひ取材していただければ、ありがたいなと思います。もう一言申し上げますと、やっぱりスポーツの力というのは、パラリンピック、オリンピックを通じて、私はすごく感じています。やっぱりコロナ禍の中、非常に不安に悩んでいる市民生活の中で、やはりアスリートの皆さんが私たちにエネルギーや元気を与えてくれた。侍ジャパンの岩崎選手、それが地元出身だから、なおさら親近感を持ちますし、ありがたかったなという気持ちを持っております。ですので、県もスポーツの振興ということは、これから力を入れていくというふうに承知していますので、スポーツを通じたまちづくり、自然環境も豊かなこの静岡市ですので、この自然環境を生かしてスポーツ、これは自分自身がやるもよし、そして観るもよし、そして支えていくと、そのアスリートを、いろんな状況の中で支えていくということもよし、そんなスポーツ環境の充実に努めていきたいなと、私は今オリパラを終えようとして、とても強く感じています。

◆司会

その他いかがでしょうか。先に静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。コロナの話に戻ってしまうのですが、少し気の早い話かもしれませんが、緊急事態宣言の期限が、9月12日まであと10日あります。静岡市内では、昨日も100人出たり、今も市長から予断を許さない状況であるというお話もありましたけれども、この緊急事態宣言解除できるのか、あるいは延長すべきか、その辺りお考えはありますでしょうか。

◆市長

難しいですね。やっぱり全県ですので、東部や西部の状況、つばさに私は存じ上げません。県からの情報をいただく中で静岡市の考え方をお伝えしたいと思います。

◆司会

そのほかいかがでしょう。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。コロナの感染者数の話で、感染者数は減ったとしても、単刀直入にお伺いすると、今、積極的疫学調査、濃厚接触者を追う、あれが結構縮小傾向にあるじゃないですか。

◆市長

特に首都圏ではそうですね。

◆中日新聞

はい。静岡でも、県内でもどこでもそうなっていると思うのですけれども、そうすると、実際に感染している人を確認しきれない可能性もあるわけで、感染者数、見込みが減ったとしても、その追いきれてない人たちの、今は現状の方が大変だろうから、限界もあると思うのですけれど、そのフォローについてはどうお考えでしょうか。

◆市長

おっしゃるとおりです。最後のほうにおっしゃった現場の現状が本当に最前線で頑張ってくれております。その中で第5波が来てしまった。濃厚接触者の1日1回のチェックも非常に厳しい状況であります。法的にそういう枠組みでできるから、やらなきゃいけないことなのではございますけれども、落ち着いていないというのが現状であります。その問題意識は、十分私も持っております。

◆中日新聞

法的な枠組みを待っていると、もう時間がたってしまって、何ならコロナが収束してしまうかもしれないのだけれど、今、緊急的にどうフォローしていくかというのはまだ。

◆市長

これも実務的に保健福祉長寿局長に答えていただきますが、保健所長からもいろんな報告を受けておりますし、マンパワーを充実したいという気持ちはあります。ただ、直営の市の職員、もうぎりぎりいっぱい今頑張っております。民間委託でそれをフォローできる資格がなければできませんからね。そういう課題もあろうかと思えます。そういう中で、今ぎりぎりのところで現状戦力で頑張っているというのが実情であります。

◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局長、杉山です。昨日の夜、在宅サポートドクター事業の説明会等ございましたけれども、医療機関のほうにもご協力いただきながら、患者の観察というのは続けていきたいというふうに思っています。また、市の看護師、保健師の応援体制、全庁を挙げての応援体制を組んでいるところでございますけれども、それでもまだ不足しているところございますので、通常、在宅でいる保健師等に応援をお願いしながら、そこに力を加えて観察のほうを継続していく体制をしっかり取っていきたいというふうに。

◆市長

おそらく記者が先日記者会見で大きく書いてくださった記事、現状の大変さ、私も読ませていただきましたけれども、この記者の記事でとても救われたという意見も、職員の声も聞いております。ありがとうございました。

◆中日新聞

あともう1問いいですか。

◆市長

どうぞ。

◆中日新聞

自宅療養の取材もしまして、やはりその中で感じたのが、自宅療養者、まだ軽症だとしても、病院に行くまでの足がない、タクシーは、当然熱があるということで断られるし、かといって自分で運転するのも熱があったりする状態で危ないと思うんですよ。また、タクシー業界を無理に巻き込めとは言いにくいですが、そういったまだ病院に行くぐらいの体力が残っている方でも、またそれも保健所にやらせるのかとなると問題だ

と思いますけれども、どんなサポートが考えられますか。

◆市長

保健福祉長寿局長。

◆保健福祉長寿局長

はい。今おっしゃっていただいたように、ご自分で動ける方ということであれば、家族の方も含めて、通院をしていただくということができればいいかなというふうに思っていますけれども、そういう方ばかりではないというふうに思っています。保健所のほうでできる範囲の中ですけれども、職員の公用車を感染対策を取りながら、活用させていただいてるところもございますので、その車両の増車といたしますか、その辺も今、取り組みをさせていただいていますので、状況によっては、保健所にご相談いただきながら、そこを支えながら進めていければというふうに思っています。

◆中日新聞

感染対策もそうですけど、結局そういう車、大きいワゴン車とかが行くとなると、近所の人たちに、「あれ、この車、もしかして」とか、そういった配慮も必要ではないでしょうか、感染対策以上に。

◆保健福祉長寿局長

そうですね。ご近所の方というところもありますので、外から見ると、一般の公用車というふうな形になりますし、運転される方についても、別に全身防護服という方ではないので、しっかりマスクをし、換気しながらの送迎というふうな形になろうかなと思いますので、その辺についても配慮しながら、対応させていただければというふうに思います。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。この感染拡大防止策として、まず市役所を毎朝見ていると、毎朝ではないのですが、8時過ぎとかの時間帯でエレベーターホールが非常に混雑しています。人がホールからあふれるほどで、市民の皆さん、普通乗るのに、私もちょっと非常に抵抗

感があって、階段で上がらざるを得ないような状況なのですけれども、職員の分散通勤、時差通勤については、どのように考えていらっしゃるのか。緊急事態宣言下で早番、遅番をなるべく活用という呼び掛けはされているようですけれども、結果的に1mの距離を取るどころではない非常な密が発生していることを市内有数の事業所の長としてどうお考えなのか、お聞かせください。

◆市長

私も最善の努力をしているつもりであります。しかしながら、エレベーターの数と職員の数の中で、8時半前後に少し密な状態になってしまっているというのは承知しております。ですから、エレベーターの中では会話しないとか、さまざまなルールをエレベーターの中に掲示したりしております。また、ある程度の方は階段を上って歩いて職場まで行くようにという呼び掛けもしております。危ないという問題意識ですので、財政局長、お答えをお願いします。

◆財政局長

財政局長の大石です。記者のご質問にありました、早出、遅出、それと職員の5割削減ということで、これは総務局のほうから全庁を挙げて取り組むということで指示が出ておりますので、それをどのくらい実現できるかということで今、各局が一生懸命努力をしております。その結果として、庁舎のエレベーターですけれども、あらためて8月20日に静岡、清水、駿河、3庁舎ありますので、それぞれの庁舎で、これまでも留意してきたのですが、できるだけエレベーターの中では会話をしないこと、そして、「混雑時は、職員の場合は来庁者に譲っていただきたい」、それと「階段を積極的に利用してください」ということで、あらためて通知させていただきました。そして、さらに分かるようにポスターというか、ちょっとした掲示も今まで以上に貼り、注意喚起を図るようにさせていただきました。ただ、その結果として、記者がご覧になって、あまり減っていないのではないかというご意見もあるかも分かりません。従前と比べた細かい調査はしておりませんが、減ってはきておりますが、まだまだ密の状態があるということですので、これから朝、検証のために職員が出ながら、指導していくというようなことも管財課のほうで考えていきたいと思っております。以上です。

◆NHK

分かりました。それと学校の分散登校については、結局、正式にはまだちゃんとしていないと思うのですが、どういうお考えでしょうか。

◆市長

少々お待ちください。

◆司会

すみません。少しお待ちください。

◆教育局長

教育局長の青嶋です。よろしくお願いします。先ほどの分散登校ということですが、それぞれの学校の事情もございますので、今、例えば、今回、児童クラブの件が2件出てしまいましたけれども、そういった状況も踏まえまして、学校ごとに今、調整しているという、そんな状況です。具体的には、まだ行ってないと思います。

◆NHK

調整して、これからでも行うのですか。

◆教育局長

先ほど市長の答弁にもありましたけれども、まずは学びを止めないということを最優先に考えています。それで、今週に入って多くの学校が受付を変えるという形でスタートしておりますので、今後もまた給食等々も始まりますので、それらの状況を踏まえて、選択肢の中には分散登校ということも可能性としてはあるというふうに考えています。

◆NHK

分かりました。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。では、NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

すみません。NHKです。もう一つ伺います。予算に関連する形で、予算資料でもあまり目立つ書き方はされていませんけれども、清水病院で起きた医療事故についての賠償金1,000万円が計上されていると思います。4年前ですか、30代の女性が右の卵巣を全摘して左の卵巣の腫瘍部分を摘出したときに、腸のほうに血の巡りが悪くなって穴が開いて人工肛門をつくるに至ったと、その後、小腸にも穴が開いて、つくった人工肛門のほうも、それも機能せずに、もう一回人工肛門をつくり直すに至ったという医療事故と聞いております。30代の女性、おそらく、妊孕性を維持するためにということで、卵巣を何とか残そうとされた方、そういった年代の方が予期せぬ人工肛門造成に至ったことについて、まず市長のお言葉をお願いします。

◆市長

おっしゃるとおりですね。経過については、おっしゃるとおりだと思っています。本件に関して、清水病院における医療行為自体、明らかな過失ではないというふうに承知はしておりますけれども、患者さんに対して手術前に十分な説明が行われなかったことについては、まことに遺憾であります。患者さんにご家族のお気持ちを考えて今回の件、重く受け止めております。清水病院として、今回のことを一つの教訓として、より患者さんに寄りそう医療を目指していきたい。そう今日は、お伝えさせていただきます。

◆NHK

患者さんへの事前の説明とおっしゃいましたが、これインフォームドコンセントだけの話ではなくて、そもそもそういった事故が起き得ることを予見して、今回であれば、消化器系のことを診られる外科医がチームの中に入っているべきだったという想定不足だったと私は理解しておりますけれども、今後こういったことが防げるような体制のバックアップはできるのでしょうか。

◆市長

今日、市長としては、記者のご指摘を受け止めておきたいと思います。

◆NHK

できるのでしょうか、そういったバックアップは。

◆市長

まだ議論はしておりませんので。

◆NHK

それと、医療ミスはないとおっしゃいましたが、医療ミスではないにもかかわらず、1,000万円という高額な賠償金を支払うというのが市民にとっては非常に分かりづらいかと思います。これはどういう説明をされますか。

◆市長

患者さん、その家族と清水病院の事務局長をはじめ、皆さんが誠実に向き合ってきたと私は思っています。その気持ちは、先方にも伝わっている一つの結果がこのような示談金だったというふうに承知しております。

◆NHK

ミスではないけれど、賠償金を支払うという、このお金で、それ自体は。

◆市長

賠償金じゃないです。示談金です。

◆NHK

賠償金と書いていますけれども、予算資料に。ですから、ミスではないけれども、賠償金1,000万円支払うというこの事例を踏まえると、では、今後もそういったことがあるのかと、市民にとっては、市立病院ではミスじゃなくてもこういった事故が起きるし、ミスじゃないけれども、賠償金が支払われると、非常に説明が難しいと思いますが、どう理解を求められますか。

◆市長

記者のご指摘を私は受け止めて、同じようなことが起こらないように、これから清水病院の皆さんにも、専門的なことは分かりませんが、どんな医療行為にもリスクが伴うということはあるかと思うんです。お医者さんじゃないから、分かりませんが、そのリスクを回避するべく一生懸命頑張ってくれている、医療の現場の最善を尽くしてくれているというふうに私は信じたいと思います。しかし、こういう事案が起ってしまったので、それは謙虚に反省、検証して、そして先ほど記者、ご指摘のインフォームドコンセント、事前に十分な説明を行って、患者さんに納得していただいた上で治療に臨むことが重要であるということを私も痛感しております。

◆NHK

分かりました。ちょっと角度を変えますが、誠実に謙虚にとおっしゃいましたけれども、この問題、最初、私、病院側に取材しましたときに、これが報道されると患者さんがつらい思いをまた思い出して悲しくなってしまうかもしれないから、報道しないでほしいと言われました。それ、よくよく私が確認しますと、実は先週の段階で、議案に上程にするにあたって公表することは患者さんに同意を得ていたことが後になって分かりました。先日、市の広報課の職員が感染したときにも、職員がこの市長会見に出席していたという説明をあえて濁して、広報課主催の行事に参加していたというような発表をされたということもありましたけれども、市長のこの広報の在り方というのは、情報をこのようにごまかしたり、伏せたり、あるいはメディアに報道させないことによって、市のイメージ維持を図るというものなのか、あらためて市長の情報発信にどのような考え方を持っていていらっしゃるのか、お伝えいただけますでしょうか。

◆市長

私は、まったくそんなつもりはありません。誠実に皆さまに説明をしている、してくれているというふうに信じております。

◆NHK

説明してくれていると、職員のせいであるかのようにおっしゃっていますが、実際に市長も前々回の会見で、データ不足を指摘する私の質問に対して、今発表しているデータだけで判断してほしいという信じがたい回答があったのですけれども、市長自身のせいではないでしょうか。

◆市長

見解の相違です。

◆NHK

では、そのときの発言は、どういった意味だったのでしょうか。発表したものだけで判断してほしいというのは。

◆市長

見解の相違です。

◆NHK

市民や報道機関が市の情報を検証したり、指摘することは必要ないという判断でしょうか。

◆市長

私自身もそうですし、広報課の職員の皆さんもなるべく誠実に記者の皆さんと向かい合おうという気持ちは持っております。また、情報発信力の強化ということを私自身強く意識して広報課の強化に当たっております。その下で民間から広報監も招聘いたしました。ぜひそのことについて、大きく私は広報を重視しているということを受け止めていただきたいと存じます。以上です。

◆NHK

広報を重視するとおっしゃいましたけれど、市長、市側のほうから質問を打ち切ることはできないことは申し合わせていますので、もう一つお答えいただきます。市長、記者会見の時間を短くしようということを提案なさいましたけれども、このコロナ禍で市の情報発信を求められている中で会見を短くしておきたいというのは、どういう考え方でしょうか。

◆市長

私が記者会見の時間を短くしようなんて言った覚えはありません。

◆NHK

そのように、広報課から申し入れがありましたけれども。

◆市長

私は承知していません。

◆広報課長

広報課長です。恐れ入ります。今の件につきましては、今回のコロナウイルスの本市のクラスターを受けまして、この定例記者会見が皆さんと、それから静岡市とどういうふうに運営すればいいかというところを前提にお話しさせていただきました。当然話し合いの間の中で、いろんなご提案をする中、時短のほうのお願いもしたわけですが、これについては市長から直接指示を受けたわけではなく、あくまで事務方のほうでの調整の内容ということでご理解ください。よろしく申し上げます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回は、9月22日、水曜日となります。本日は、ありがとうございました。